

No 1-1

(2011.6.1 掲載)

No 1-2



被災した方々への支援活動 ～図書への寄贈～

公益社団法人 日本化学会
会長 岩澤 康裕

公益社団法人日本化学会では、東日本大震災で被災された方々への支援活動として、「化学を中心とするサイエンスコミュニティおよび次世代を担う小・中・高校生に対して、短期だけでなく中長期的に継続して支援活動を行う」ことを基本方針とした「東日本大震災被災者支援事業」を実施することを決定いたしました。本事業の中で、短期支援策の第一弾として、小・中・高校生向けの化学(科学)に関する本を避難所や図書館に寄贈いたしましたので、下記のとおりご報告いたします。

1. 避難所への寄贈

被災地に本を送る活動を極め細く実施している出版5団体<大震災>出版対策本部と連携して、19カ所の避難所(岩手県7カ所、宮城県8カ所、福島県4カ所)に向けて、15種類の本を1セットとして19セット、合計285冊を配送いたしました。

2. 図書館への寄贈

被災した図書館の支援を行っている日本図書館協会と連携して、28カ所の図書館に向けて、29種類の本を1セットとして28セット、合計812冊を配送いたしました。日本図書館協会以一冊ごとに保護フィルムを貼った上で、被災された図書館にお届けする予定です。

本活動を進めるにあたり、出版5団体<大震災>出版対策本部および日本図書館協会の皆様のご協力をいただき、また多くの出版社*の方々へ便宜を図っていただきました。心より御礼申し上げます。

* ご協力いただいた出版社(五十音順、敬称略)

朝日新聞出版、岩波書店、学研マーケティング、共同通信社、幻冬舎、小学館、誠文堂新光社、東京書籍、北海道大学出版会

公益社団法人 日本化学会
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
Tel: 03-3292-6161
Fax: 03-3292-6318



[「日本化学会」に戻る](#)

Copyright(C); 2011, The Chemical Society of Japan

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成25年 8月30日

事業名		岩手県立高田高等学校化学教育図書支援	支援項目番号: ①2 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名		被災地高校化学教育図書支援	
責任者	フリガナ氏名	ヒラハラヒデトシ [組織での役割: 実施統括] 平原英俊 (会員番号:)	
	連絡先	〒020-8551 岩手県盛岡市上田4-3-5 岩手大学 大学院工学研究科	
協力者	フリガナ氏名	イセ イソコ 伊勢 勤子 (会員番号:)	
	連絡先	〒022-0006 岩手県大船渡市立根町萱中215-1 岩手県立高田高等学校	
<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>岩手県立高田高等学校は2011年3月11日の東日本大震災で津波による甚大な被害を受け、生徒14名が死亡、生徒4名と教職員1名が行方不明となる大惨事となった。校舎もすべて破壊され、同年5月2日より岩手県陸前高田市高田町から、隣の大船渡市の岩手県立大船渡東高等学校の校舎を借用し、バスで往復約2時間かけて通学している。県立高田高等学校では校舎がすべて破壊したため図書も紛失し、化学に関する図書も全く無く、化学授業を行う上で支障をきたしているということである。</p> <p>そこで、別添の図書を購入し平成25年8月19日に岩手県立高田高校に寄贈支援いたしました。</p> <p>(別紙1 参照)</p>			
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	239,820円
総括	平成25年11月19日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: ① 2 3 4 5 6 7 常務理事印 

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成24年 3月13日

事業名		マイクロスケール化学実験の宮城地区展開	支援項目番号: 1 <input type="checkbox"/> 2 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名		東北支部	印
責任者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ (組織での役割: 実施統括) 河野 裕彦 (会員番号:)	
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
協力者	フリガナ氏名	クニイ ケイコ (会員番号:) 國井 恵子	
	連絡先	〒981-3132 宮城県仙台市泉区将監9-12-1 仙台市立将監中学校	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公益法人日本化学会からの支援を受けて発注した器具が到着したあと11月10日に仙台市科学館を会場にして被災した中学校の理科教員を対象にしたマイクロスケールの化学実験研修会を開催した。最初予算的な面から大規模校での実施を考えたが、被災校での困窮状況を知り、まず研修会で実験してもらい、各学校で役立ててもらおうというねらいで実施した。参加人数は15名。講師に宮城教育大付属中学校の教諭と科学館職員で研修会をスタートさせた。大学関係者の見学、元東北大学教授で今回のキット開発者、夢化学の方からも見学があった。研修を実施し始めた段階で、被災校の教員から「これなら教室でも実験ができる。」と歓声が上がった。教室での実験場の注意を踏まえて、使用法について詳しく説明した。試薬等もケースに入れて持ち運びが便利ようにして、仙台市内の被災中学校に貸与した。 実際教室で実験を開始し、生徒達が興味関心を持ち実験に参加していた。説明だけでは理解できない化学現象を理解させるのに時間がかからず、簡単な操作で結果が出るので教育効果が高いといった感想が寄せられている。 被災してから教室で実験することが難しくなっていた。とくに化学分野は試薬を使い教室での実施ができず今まで実施してこなかった。参加者から、3年生のイオン分野については実験をしないと理解が難しく、対応に苦慮していたが、このキットの使用によって、簡単に教室で実験することが可能になった。 	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	575,694 円
総括	平成24年 3月19日 委員会・ <u>持ち回り委員会</u>	<input type="checkbox"/> 承認	支援項目番号: 1 <input type="checkbox"/> 2 3 4 5 6 7 常務理事印



No 2-2

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成 年 月 日

事業名		スモールスケール化学実験の宮城地区の展開	支援項目番号: 1 <input type="checkbox"/> 2
			3 4 5 6 7
組織(委員会等)名		東北支部	
責任者	フリガナ氏名	サトウ ツギオ (組織での役割: 実施統括) 佐藤 次雄 (会員番号:)	印
	連絡先	〒980-8557 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学多元物質科学研究所	
協力者	フリガナ氏名	クニエ コノ (会員番号:) ・ 菅野 宏一 (会員番号:)	
	連絡先	〒981-8003 仙台市泉区南光台7-24-1 仙台市立南光台中学校 〒981-0903 仙台市青葉区台原森林公園4-1 仙台市科学館	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>・平成24年12月25日、石巻高校を会場に石巻地区の先生方を対象としたスモールスケール化学実験講習会を開催した。石巻地区の理科部会長をはじめ、被災学校の小学校、中学校、高等学校の教員が実験実習を行った。講師は東北大学名誉教授 荻野和子氏であった。実際に実験を行った中で、参加者には試薬の量の少なさ、そして実験の早さに理科室でなくとも実験が可能であることを理解していただいた。昨年度の仙台市の被災学校で行われた実験に関しても紹介し、実験器具と薬品は石巻地区の理科部会長の桃生中に送付し、石巻地区の被災学校へ配布した。</p> <p>今後も、教員の研修会の希望があれば、研修会を実施していく方向で被災学校支援を行う予定である。</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	944,995円
総括	平成 24年 12月 22日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 <input type="checkbox"/> 2 3 4 5 6 7
			常務理事印 25.4.25

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成25年3月28日

事業名		福島県における仮設校舎での授業や実験を推進するための備品、消耗品整備	支援項目番号: 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名		東北支部	
責任者	フリガナ氏名	サウ ツギオ (組織での役割: 実施統括) 佐藤 次雄 (会員番号:)	印
	連絡先	〒980-8557 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学多元物質科学研究所	
協力者	フリガナ氏名	ハヅメ キヨヲ (会員番号:) 橋爪清成 (会員番号:)	カハシ ノブキ (会員番号:) 高橋信幸 (会員番号:)
	連絡先	〒960-8002 福島県福島市森合町5-72 福島県立福島高校 〒964-0904 福島県二本松市郭内2-347 福島県立安達高校内 仮設校舎	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>校舎被災、放射性物質汚染地域からの学校移設等により仮設(プレハブ)校舎での授業、実験等を余儀なくされている福島高校、浪江高校津島校にマイクロスケール実験器具、デジタル機器等の導入を行った。仮設校舎は本来の教室に比べて手狭であり、また、実験をする環境があまり整っていない。このような状況下、今回支援していただいた物品により手狭な環境でも実験をおこなうことができた。またデジタル教材の活用により省スペースで刺激的、効果的な授業を展開することができた。例えば福島高校では短焦点プロジェクタを用いることにより狭い教室でもパワーポイント等を導入した授業を定着させることができた。</p> <p>今回ご支援いただいた機器は今後も長期的に活用することができる。また、生徒の激励になっただけでなく、化学の授業の改善、グリーンケミストリーの導入といった新たな化学教育の展開についてのきっかけとなった。</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	¥868,402 <input checked="" type="checkbox"/>
総括	平成 25年 6月 20日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 4 5 6 7 常務理事印 25.6.21

(別紙3)

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿


平成 25 年 2 月 18 日

事業名		公益社団法人日本化学会 東日本大震災被災者支援事業 「マイクロスケール化学実験講習会」	支援項目番号: 1 ② 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名		日本化学会東北支部	
責任者	フリガナ氏名	しまだ かず あき [組織での役割: 東北支部岩手地区幹事] 嶋田 和明 (会員番号: 1)	印
	連絡先	〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学工学部応用化学・生命工学科	
協力者	フリガナ氏名	すずき えい いち [組織での役割: 東北支部岩手地区教育幹事] 鈴木 映一 (会員番号:)	印
	連絡先	〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学工学部応用化学・生命工学科	
実施内容の概要		<p>【開催日】2013年1月26日(土) 午前9時30分～午後4時00分</p> <p>【会場】岩手大学三陸復興支援機構釜石サテライト(〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15番2号 釜石市教育センター5階)</p> <p>【主催】日本化学会東北支部、【共催】釜石市教育委員会、大槌町教育委員会、大船渡市教育委員会、陸前高田市教育委員会・岩手大学、【協力】宮古市教育委員会、山田町教育委員会、遠野市教育委員会、住田町教育委員会</p> <p>【講師】荻野和子先生(東北大学医療技術短期大学部名誉教授)</p> <p>【参加者】岩手県三陸沿岸部市町村の中学校・高等学校の理科教員、合計7名(釜石市1名、宮古市3名、遠野市1名、大船渡市1名、住田町1名)</p> <p>【実験内容】気体の発生の実験、電気分解、水溶液の電気分解、定比例、イオン、酸・アルカリの実験等</p> <p>【実験実施協力】是永敏伸(岩手大学工学部准教授)、及川豊史(岩手大学三陸復興推進機構)</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	363,059 円
総括	平成25年6月20日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7 常務理事印 川 25.6.21 印

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成25年12月2日

事業名		マイクロスケール化学実験の石巻好文館高等学校での展開	支援項目番号: 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名			
責任者	フリガナ氏名	マイクロスケール化学実験小委員会 [組織での役割: 委員長] おぎの かつこ (会員番号:) 荻野 和子	印
	連絡先	〒981-0944 仙台市青葉区子平町16-30	
協力者	フリガナ氏名	スガワラ ユウスケ 菅原 佑介 (会員番号:)	
	連絡先	〒986-0851 宮城県石巻市貞山三丁目4番地1号	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>・実施 3年生30人の化学選択者の実験全般に使用した。マイクロスケールキット備え付けの実験「爆鳴気」「電気分解」はもとよりプチボトル、24セルプレートを利用した実験も実施できた。具体的に実施した内容は「陽イオンの沈殿実験」「金属樹生成の顕微鏡による観察」「紫キャベツを用いた酸・塩基判別」である。1年生188人の化学基礎においては現在酸・塩基に入ったので、今後「爆鳴気」「電気分解」を実施していく予定である。9月までの実施結果については、2013年9月28日に東北大学で開催された化学教育研究協議会東北大会において報告した。</p> <p>・感想 生徒たちはマイクロスケールで実施できる実験に興味津々であった。またプチボトルの使用はとくに楽しそうであり、器具の使用に興味を持たせ、化学実験を身近に感じていた。</p> <p>・今後 今年度限定の物ではなく、来年度以降も定番実験として取り入れていきたい。</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	169,365 円
総括	平成25年6月20日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7 常務理事印 

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成25年12月10日

事業名		ICTを用いて観察力・表現力の向上を目指す 化学の授業と実験	支援項目番号: 1 ② 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名			
責任者	フリガナ 氏名	コウノ ヒロヒコ (組織での役割:) 河野 裕彦 (会員番号:)	印
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
協力者	フリガナ 氏名	ミシマ ヒロト (会員番号:) 三嶋 廣人	
	連絡先	〒988-0051 宮城県気仙沼市常楽130 宮城県気仙沼高等学校	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>2・3年生の化学実験で、イーゼンセンスとプロジェクターを用いて、実験結果をリアルタイムで見せたり、生徒実験でデータ処理やレポート作成にi-Padを使用し、写真付きでレポート作成をさせたりすることができた。</p> <p>(使用一例) 8月「凝固点降下度の測定」6クラス</p> <p>イーゼンセンスを用いて、水と食塩水を冷却した時の時間と水温の変化をリアルタイムに図示し、実験操作や解析方法についてプロジェクターで投影しながら解説した。また、生徒実験として、測定した温度をi-Padに入力し、すぐにグラフ化し、凝固点降下度を求めさせた。</p> <p>※従来の授業との相違点</p> <p>① 得られるであろうデータをイーゼンセンスで測定し示すことで、測定で注意しなければいけないことや解析方法について、スクリーンに書き込みながら説明ができるようになった。</p> <p>② 各自が測定したデータをグラフにプロットしなければ全体像が見られなかったが、i-Padの表計算アプリを用いることで、すぐに可視化できるようになり、理解度が上がった。また、それをレポートにすぐに使うことができるため、時間を削減し、考察や内容に重点を置くことができるようになった。</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	895,450 円
総括	平成25年(11月15日) 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7 常務理事印 川 25.11.20 島

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成25年12月5日

事業名		LEDを用いた野菜の栽培実験	支援項目番号: 2
組織(委員会等)名			
責任者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ 河野 裕彦 (会員番号:)	印
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
協力者	フリガナ氏名	タテイシ セイコウ 楯石 誠晃	
	連絡先	〒981-1243 宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>・公益法人日本化学会からの支援を受けて発注したソーラパネルが到着したあと、農業機械科の生徒と共に植物工場のシステムを作成し、11月2日の産業教育フェア宮城大会(場所:名取市 マナウェル)にて宮城県内の専門高校生および一般のお客に対して廃車を用いたソーラパネル付き植物工場の試作品を展示した。参加人数は300人以上。その後、農業機械科の生徒と共に、気密性のチェック、センサーの取り付けなどを行った。11月15日(金)に宮城農業に植物工場の研究をしている千葉大学の丸尾教授が講演をするため来校したので、農業機械科の生徒40名も聴衆として参加し、植物工場に必要な培養液の循環システムの講義を受けた。現在、仮設校舎内で植物を培養するシステムを改良中である。</p>	
		支出金合計額 (要添付:請求書等)	368,710円
総括	平成 ²⁵ 年 ¹¹ 月 ¹⁵ 日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 2 常務理事印 20.2.14 印

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成 25 年 11 月 9 日

事業名		放射線教育の石巻好文館高等学校での展開	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名			
責任者	フリガナ 氏名	コウノ ヒロヒコ 河野 裕彦	[組織での役割: 支援委員会委員] (会員番号:)
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
協力者	フリガナ 氏名	スガワラ ユウスケ 菅原 佑介	(会員番号: 2131161600)
	連絡先	〒986-0851 宮城県石巻市貞山三丁目4番地1号	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>本校3年生11人の化学選択者対象に放射線について講義をした上で霧箱を見せた。「α線は紙を通らない」「鉛はα、β線を通さない」「ラジウム線源からポロニウム、鉛が生成していく過程」など放射線を見せるだけではなく、その性質などを説明した。また見に来た物理教諭のはからいでクルックス管や陰極線を用いてβ線をはっきりと確認することができた。また「放課後化学講座」として科学に興味のある有志の1年生10人を集めて同じ内容を実施した。今後は冬休みに「冬季課外特別講座」として呼びかけを行い、1年生、2年生、3年生対象に実施したい。</p> <p>生徒の感想は、どれも放射線の存在を確認し、驚いていたと同時にその神秘的な光景に魅せられていた。目に見えない存在を見ることができる装置に改めて科学の偉大さを感じていた。</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	829,500 円
総括	平成 25 年 11 月 20 日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7 常務理事印 川島 25.11.20

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成 25 年 11 月 9 日

事業名		石巻好文館高等学校での化学実験の充実	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名			
責任者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ [組織での役割: 支援委員会委員] 河野 裕彦 (会員番号:)	印
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
協力者	フリガナ氏名	スガワラ ユウスケ 菅原 佑介 (会員番号:)	
	連絡先	〒986-0851 宮城県石巻市貞山三丁目4番地1号	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>・実施 本校3年生30人の化学選択者の実験全般に使用した。具体的には「イオン化傾向測定電圧計を用いた金属間電圧の測定」「ムラサキキャベツパウダーを用いた身近な酸・塩基の確認」「デジタルpHメーターを用いた塩の水溶液の性質」「デジタルpHメーター、パソリナミニスターラー、かくはん子を用いた中和滴定と滴定曲線」「ナトリウムを用いたアルカリ金属の性質」「炎色反应用ステンレス金網を用いた炎色反応」である。1年生188人の化学基礎においては現在酸・塩基に入ったので、今後イオン化傾向測定電圧計を用いた金属間電圧の測定」「デジタルpHメーターを用いた塩の水溶液の性質」「デジタルpHメーター、パソリナミニスターラー、かくはん子を用いた中和滴定と滴定曲線」を実施する予定である。</p> <p>・感想 現在の3年生は震災の影響で1回も実験を実施できなかった。今回の支援により多くの実験を体験できて化学のおもしろさを再確認していた。</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	830,392 円
総括	平成 25 年 11 月 20 日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7 常務理事印 川島 25.11.20

東日本大震災被災者支援事業報告書


公益社団法人日本化学会殿

平成 25年 12月 日

事業名		震災により実験室使用の限られる仮設校舎での理科授業展開	支援項目番号: 1 ② 3 4 5 6 7		
組織(委員会等)名					
責任者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ 河野 裕彦 (会員番号: ...)	印		
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科			
		Tel. ... E-mail ...			
協力者	フリガナ氏名	コノノ 克也 (会員番号: ...)			
	連絡先	〒986-0833 宮城県石巻市日和が丘2-11-8			
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、予定人数・冊数・箇所、等)</p> <p>東日本大震災により石巻市は壊滅的な被害を受け、平成24年1月より本校敷地には校舎が使用不可能となった石巻市立女子商業高校が仮設校舎を設置し学習を行っている。これも一つの契機となり平成27年度から本校と市立女子商業高校は、統合され石巻市立桜坂高等学校となることになった。このための建替耐震工事は現在進行中で、平成25年8月末より両校が仮設校舎での学習環境となり、理科の実験や授業にも大きな制約がでている。</p> <p>そこで、教材提示器やプロジェクターなどの設備を用いて教室内で化学の演示実験や視聴覚教材を利用した授業を展開したいと考え、貴法人からの支援にて教材を整備させていただくことになった。仮設校舎への引っ越しにあたり、支出予定時に検討していた機種から、プロジェクターについては、耐久性や汎用性を重視した製品に変更。デジタル顕微鏡・デジタル実体顕微鏡、電子黒板の導入は見合わせることにした。</p> <p>開催日時：25年12月から 会場：宮城県石巻市立女子高等学校 内容：視聴覚教材機器 書画カメラ、液晶プロジェクター、モバイルスクリーン、付属品</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="text-align: center;">希望金額 (要添付：支出予定表)</td> <td style="text-align: right;">1,005,543円</td> </tr> </table>		希望金額 (要添付：支出予定表)	1,005,543円
希望金額 (要添付：支出予定表)	1,005,543円				
総括	平成 25年 11月 28日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号： 1 2 3 4 5 6 7		
			常務理事印 		

公益社団法人日本化学会殿

平成25年12月10日

事業名		科学の窓「エネルギーとその利用」	支援項目番号: 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名			
責任者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ 河野 裕彦	[組織での役割: 支援委員会委員] (会員番号:)
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
	フリガナ氏名	スガワラ タケヒサ 菅原 健久	(会員番号:)
協力者	連絡先	〒985-0831 宮城県多賀城市笠神2-17-1 宮城県多賀城高等学校	
	フリガナ氏名		
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公益法人日本化学会からの支援を受けて発注した器具が到着したあと12月9日および10日に宮城県多賀城高等学校2学年の理系クラス(2クラス, 合計79名)を対象にして, 燃料電池等の次世代型エネルギーについて特別授業をおこなった。最初, 2学年の他のクラスにおいても実施を考えたが, 学校行事や講師の先生の日程を調節することが難しく, 理系2クラスのみを対象とした。生徒たちの進学意欲の向上や化学が担うこれからの世の中での役割について理解を深めさせたいというねらいで実施した。講師に東北大学大学院環境科学研究科の川田達也教授をお招きし, 電池についての基本となる講義から燃料電池やリチウムイオン電池について講義をいただいた。スライドを用いた講義形式であり, 内容は発展的な内容であった。高校の授業内容に比べ難しい内容であったが, 実生活の中での活用状況や今後の社会基盤の在り方などの内容に興味を持っている様子であった。 参加した生徒の様子では, 固形酸化物型燃料電池を手に取り, 不思議そうに眺めていたり, 補助教材の資料集を開き比較してみたりと内容を理解しようと努力していた。また, メモを取るなど, 積極的に授業に臨んでいる様子も見ることができた。 	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	253,909 円
総括	平成25年 9月9日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 3 4 5 6 7
			常務理事印 

東日本大震災被災者支援事業報告書

2013/2/9

公益社団法人日本化学会殿

平成25年12月9日

事業名		マルチカメラによる映像配信・収録機器	支援項目番号：1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 3 4 5 6 7
組織 (委員会の名)			
責任者	フリガナ氏名	ユウノ ヒロヒコ 河野 裕彦	[組織での役割：支援委員会委員] (会員番号：)
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
協力者	フリガナ氏名	アヲノ コトエ 栗野 琴絵	(会員番号：)
	連絡先	〒985-0056 宮城県多賀城市笠神二丁目17番1号 宮城県多賀城高等学校	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>◎公益法人日本化学会からの支援を受けて発注した機材が到着したあと、7月6日の本校オープンスクールにおいて、生徒制作の学校紹介ビデオ、説明のためのパワーポイント資料、会場に設置した3台のカメラによる説明者や参加者の表情などを240インチスクリーンに切り替えながら投影し、来校した中学生及び保護者に対し効果的なプレゼンテーションを行うことができた。</p> <p>◎同月23日、塩竈市「遊ホール」で行われた、本校合唱部の定期演奏会においてマルチカメラによる公演の収録を行った。震災以前は業者に収録を依頼していたが、被災した生徒も多く、経済的に業者へ支払う費用の負担ができず収録を断念していたが、今年は支援を受けて発注した機材により再開することができた。また、収録はすべて本校放送部の生徒が自主的に機器の設置、操作等を行い、番組制作技術を向上させることができた。</p> <p>◎8月30日～31日に行われた本校文化祭「多高祭」において、体育館に設置した機材により、来校した保護者や地域住民に、生徒の生き生きとした活動を視覚的に紹介することができた。また、生徒たちもスクリーンに映し出される自分たちの表情に、「明日への思い」を新たにすることができた。</p> <p>◎その他 6月に行われたNHK杯全国高校放送コンテストの宮城県決勝大会、及び、11月に行われた県高校放送コンテスト新人大会で参加各高校の放送部員が収録を行い、生徒自ら大会運営にたずさわることができた。今後も、「卒業式」など式典収録や、講演会、その他での活用を予定している。</p>	
		支出金合計額 (要添付：請求書等)	469,980円
総括	平成25年9月9日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号：1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 3 4 5 6 7



No 2-13

東日本大震災被災者支援事業報告書

2013.12.11

公益社団法人日本化学会殿

平成25年11月21日

事業名		顕微鏡	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名			
責任者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ 河野 裕彦 (会員番号:)	印
	連絡先	〒985-8573 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
協力者	フリガナ氏名	アワノ コトエ 粟野 琴絵	
	連絡先	〒985-0831宮城県多賀城市笠神二丁目17番1号 宮城県多賀城高等学校	
実施内容の概要		<p>顕微鏡を用いた授業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目名: 生物 2. 対象生徒: 2年生 3. 内容: 生物(体液と体内環境について)の分野でヒトの血液の観察実験を行う際、顕微鏡を用いた。また、対物マイクロメーター、接眼マイクロメーターを用いて赤血球の全長を測定した。尚、血液のプレパラートは安全面を考慮し市販のプレパラートを用いた。 4. 結果: ピント調整とメカニカルステージ、また、光源装置の微妙な操作ができ、容易に対象物を観察でき生徒の理解度が深まり学習意欲の向上につながった。 	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	¥273,000



H 25.9.9 河野




東日本大震災被災者支援事業報告書

17.12.9

公益社団法人日本化学会殿




平成25年11月25日

事業名		科学巡回指導訪問における教材の充実	支援項目番号: 1 <input checked="" type="checkbox"/> 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名		東北支部	
責任者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ 河野 裕彦	[組織での役割: 実施統括] (会員番号:)
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科 TEL: _____	
協力者	フリガナ氏名	アンザイ ヨシカズ 安齋 善和	(会員番号:)
	連絡先	〒981-1217 宮城県名取市美田園2-1-4 宮城県総合教育センター	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公益法人日本化学会からの支援を受けて発注した器具が到着した後、今年度実施される科学巡回指導訪問に早速器具を持ち込み観察、実習を行った。11月18日~19日に南三陸町立入谷小学校、11月22日に川崎町立前川小学校で合計132名を対象として太陽望遠鏡、プリズム、直視分光器等を用いて太陽の観察を行い、太陽光の性質、スペクトル解析に関する授業を行った。これらは、「自然観察」の授業において、かねてから実施したいと考えていた内容であったが、予算的な面から実現することができなかった。特に、普段は直視することができない太陽を望遠鏡で観察することは、児童にとっても大変貴重な経験であると考え。太陽表面の様子から、活発に活動している天体であることを認識させて、さらにその恩恵を受けて私たちの生活が営まれていることを伝えることができた。 ノートパソコンの増設により、「ロボット制御教室」において「梵天丸」の制御実習をより少人数のグループで実践できるようになった。 プロジェクターの性能向上により、体育館で行う全体での液体窒素を用いたデモンストレーションの様子等について、後方に位置する児童にもより鮮明に映像を見せることができるようになった。 以上のように、今回の支援は、科学巡回指導の事業内容全体の質を向上することに大きく貢献している。 	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	970,435 円
総括	平成25年11月20日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 <input checked="" type="checkbox"/> 3 4 5 6 7
			常務理事印 

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成24年3月9日

事業名		気仙沼市内の小学校並びに図書館等に於ける実験教室の支援事業		支援項目番号: 3
責任者	フリガナ氏名	ワタナベ トモヒロ 渡部 智博 (会員番号:)		
	連絡先	〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 立教新座中学校・高等学校		
協力者	フリガナ氏名	サイトウ キヨシ 齊藤 潔 (会員番号:)		
	連絡先	〒225-8502 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614 桐蔭横浜大学 Tel _____ Fax _____		
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>東日本大震災の被災地である気仙沼に出向き、被災者支援の一つとして実験教室を実施したいと考えた。気仙沼市教育長らと連絡を取り合い、企画、計画した。</p> <p>開催日時；2011年11月5日(土) 午前10時～12時 会場；気仙沼市立唐桑小学校 人数；21名 実験内容； (1) 君も名探偵！葉っぱの中身を分析しよう！（齋藤潔） (2) 光の不思議（渡部智博） 主催 公益社団法人日本化学会、気仙沼市立気仙沼図書館、カラット※ (※)カラット；気仙沼の小学生並びにその保護者らで組織されている団体である。当団体は、文化活動やスポーツ活動を企画・実施し、気仙沼の子供たちの教育活動を支援している。</p>		
		支出金合計額 (要添付：請求書等)	¥135,330	
確認	平成24年4月9日 委員会・持ち回り委員会		支援項目番号: 3	常務理事印 

A24.49

気仙沼での実験教室 —東日本大震災被災者支援事業—

背景

2011年は、3.11の東日本大震災以来、私たち日本人にとっては忘れることができない年となった。第91春季年会（神奈川大学）は紙上発表で終わり、諸行事が中止になったところも多い。このような年にあたり、本学会として、東日本大震災被災者支援事業を行う流れができた。その1つとして、11月5日に宮城県気仙沼市唐沢体育館で「おもしろ実験教室」を開催したので、ご報告したい。

実験教室の開催

気仙沼市は今回の大震災でも大きな被害を受けた地域である。気仙沼市で実験教室を実施するに当たっては、長年にわたる松原静郎教授（桐蔭横浜大学）の働きを忘れてはならない。松原研究室の学生が教育実習を行い、気仙沼市教育長の白幡勝美氏と共同で研究を行っていた地域である。白幡氏は高校で化学を教えた後、同市立気仙沼図書館で長年にわたり理科実験講座を開くという教育活動をされていた。このようなご縁のある地域に、桐蔭横浜大学の齋藤潔教授と私が協力させていただいた。齋藤教授は全国各地で実験教室を開催し、経験豊富。特に、研究室の学生はたいへん優れた実験協力者であり、今回の実験教室でも活躍

してくれた。

本来であれば、事前に会場を視察し、実際に会って要望を把握した上で実験教室を実施するが、遠方であること、受け入れ側が極めて多忙であることなどもあり、今回は電話やメール上でのやり取りを踏まえ、そして現地に赴いた。

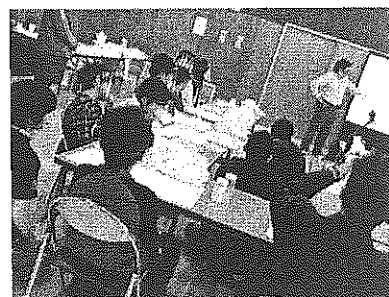
白幡氏は地元で様々な活動を行う上で欠くことのできない方であり、多くの困難に立ち向かっていた。また、地元には、スポーツや文化活動を支援するカラットと呼ばれるボランティア団体が組織されていた。このような実績と背景があったため、実施にこぎつけることができた。

実験教室

齋藤教授並びに3名の学生諸君は、11月4日、気仙沼市内に宿泊。同日中に実験教室の会場を下見し、基本的な準備をした。実験台は実験ボランティアの大学生らと児童とが対面できるような、牛丼屋のような配置である（牛丼方式）。実験の指導者は、招待されるという意識であることが多いが、特に今回のような場合は、準備・実施・片付けなどすべて自分たちで行うというスタンスで臨むことが大切であるという意識を確認し合った。このため、会場の床にはブルーシートを貼る、ゴミは持ち帰る等の準備をした。

当日は、会場となる体育館では実験道

具を広げて準備をしつつ、保険の手続きなどを済ませた。齋藤教授は「君も名探偵！葉っぱのなかみをぶんせきしよう!!」というテーマでクロマトグラフィーの実験を行う。私は「光のふしぎ」と題して偏光板を利用した実験を行った。



クロマトグラフィーの実験の様子

背景

実験教室が終わり、あらためていろいろな話を伺ったが、生死の境をくぐり抜けた友人の話など、一言では語り尽くせないものばかりであった。気仙沼駅から海岸付近へと移動し、その風景を見ればすべてが語られていると言っても過言ではなかった。いまだに、どこまで津波が押し寄せて来たかがはっきりとわかるような状況であった。継続的な支援の必要性を感じた。

〔波部智博（立教新座中学高等学校）〕

© 2012 The Chemical Society of Japan

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成24年 4月 6日

事業名		化学展展示物の被災地での展示	支援項目番号: 1 2 ③ 4 5 6 7
組織(委員会等)名		I Y C委員会	印
責任者	フリガナ氏名	カワシマ ノブユキ 川島信之 〔組織での役割: 常務理事〕 (会員番号:)	責任者
	連絡先	〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5 日本化学会	
協力者	フリガナ氏名	タケウチ ケイ 竹内 恵 (会員番号:)	
	連絡先	〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5 日本化学会 学術情報部	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>世界化学年2011特別展「きみたちの魔法ー化学『新』発見」の展示物一式を、東北地方の被災地の公民館および科学館に巡回展示する。</p> <p>1) 岩手県上閉伊郡大槌町公民館巡回への支援 開催日時: 2012年3月18日(日)~20日(火・祝日) 9:30~17:00 会場: 大槌町役場 中央公民館 大会議室 主催: 日本科学未来館・日本化学会 共催: 大槌町教育委員会・岩手大学 協力: NPO法人遠野まごころネット 来場者人数: 計619人(18日 183人、19日 133人、20日 303人) メディア掲載: NHK盛岡(20日夕放送)、岩手日報(21日掲載)</p> <p>2) 郡山市ふれあい科学館巡回への支援 開催日時: 2012年4月28日~5月13日 10:00~17:45 (15日間) 会場: 郡山市ふれあい科学館21階展示ゾーン 主催: 郡山市ふれあい科学館 協力: 科学技術広報財団 予定来場者人数: 5,000人</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	722,438円
総括	平成24年4月19日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 2 ③ 4 5 6 7 常務理事印 24.4.20

(2012. 3. 9 掲載)



3月18日(日)～20日(火・祝) 巡回展「きみたちの魔法－化学『新』発見」 岩手県大槌町にて開催

日本化学会(会長・岩澤康裕)と日本科学未来館(館長・毛利衛)は、平成24年3月18日(日)から20日(火・祝)の3日間、岩手県の大槌町で巡回展「きみたちの魔法－化学『新』発見」を開催します。

日本化学会では昨年11月、日本科学未来館、日本化学工業協会と共同で東京・江東区青海の日本科学未来館で「きみたちの魔法－化学『新』発見」を開催、子どもから大人まで幅広く楽しんでいただきました。一方、日本化学会では東日本大震災被災者支援委員会を設置し、さまざまな支援活動に取り組んでまいりましたが、今回その一環として、震災で被害を受けた岩手県大槌町で巡回展を行うことに致しました。

「きみたちの魔法－化学『新』発見」では「ひやすと見える」(感熱色素)、「ひかりでいろがかわる」(フォトクロミック材料)など化学が生んだ材料を用いて、化学の不思議さや面白さを体験してもらう体験型展示、また日本のノーベル化学賞受賞者6名のメッセージや顕微鏡映像などをご覧ください。

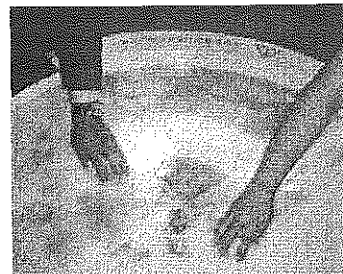
こうした展示を通じて、化学の面白さや社会における化学の役割、化学と自分自身の関わりについて感じてもらうことを目的にしています。

■概要■

タイトル	巡回展「きみたちの魔法－化学『新』発見」
開催日時	平成24年3月18日(日)～20日(火・祝)10:00～17:00
場所	大槌町役場 中央公民館 大会議室 (住所:岩手県上閉伊郡大槌町小槌第32地割126)
入場料	無料
対象	小学生以上
主催	日本化学会・日本科学未来館
共催	大槌町教育委員会・岩手大学
協力	NPO法人 遠野まごころネット
企画・製作	日本化学会・日本科学未来館・日本化学工業協会
展示物	巡回展示は体験展示8種類、映像展示2種類、パネル展示1種類

【体験展示例】

- ・においをつくる(香料)
目に見えないにおいも物質でできています。展示では、人工的に作ったカレーやコーヒー、土などのにおいを実際に嗅いでみます。本物の食べ物の香りとう違うでしょうか。体験してみましょう。
- ・ひかりでいろがかわる(フォトクロミック材料)
特別なシートにレーザーを当てると、当たったところだけ色が変わり、絵が描けます。一定時間が経つと、シートはまたもとの状態に。この素材は、光を当てると一時的に分子構造が変わり、色が変化する性質を持っています。太陽光を受けるとサングラスになるメガネなどにも応用されています。
- ・ひやすとみえる(感熱色素)
白いテーブルの上で氷を動かすと、氷のあたった部分の温度が下がり、色が変わります。温まるとまたもとの白に。感熱色素は温度により色を変えることができる素材で、こすると消えるボールペンなどにも応用されています。



展示「ひやすとみえる」

№ 3-3

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成25年12月4日

事業名		未来への志「化学講演会」	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名			
責任者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ 河野 裕彦	(組織での役割:) (会員番号:)
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科	
協力者	フリガナ氏名	オノデラ シュンジ 小野寺 俊二	(会員番号:)
	連絡先	〒988-0051 宮城県気仙沼市常楽130 宮城県気仙沼高等学校	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>7月16日(火) 新井邦夫 名誉教授 (東北大学工学部化学工学科) 演題: 「理系を選ぶ事。そして理学と工学の違いは」 対象: 1年生全員 (281名)</p> <p>7月25日(木) 横山千昭 教授 (東北大学工学部化学工学科) 演題: 「超高压の世界。アメリカと日本」 対象: 3年生理系クラス生徒 (112名)</p> <p>11月11日(月) 阿尻雅文 教授 (東北大学工学部化学工学科) 演題: 「理系大学で何を学ぶか」 対象: 2年生理系クラス生徒 (123名)</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	112,926円
総括	平成25年11月20日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 2 3 4 5 6 7





花巻 11358 @ 3786x3
 謝野 101.568 @ 33853x3
 112926

(別紙3)

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成25年10月8日

事業名		東北地区小中高生化学実験体験支援 (スリーエム仙台市科学館共催)	支援項目番号: 1 2 ③ 4 5 6 7
組織(委員会等)名		日本化学会 東北支部	
責任者	フリガナ氏名	山下 正廣 [組織での役割: 支部長.] (会員番号:)	
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3 東北大学大学院理学研究科 化学専攻	
協力者	フリガナ氏名	豊田 耕三 (会員番号:)	
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3 東北大学大学院理学研究科 化学専攻	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>スリーエム仙台市科学館 (旧称・仙台市科学館) 特別展示「元素の世界」(旧称: 化学の不思議な世界)において、主に東北地方の小中高生を対象として以下の体験型化学実験を実施した。</p> <p>色水で調べよう・ペーパークロマトグラフィー・鏡の世界の分子をのぞいてみよう・オレンジパワーでスタンプを作ろう・分子のきずな クロスカップリング反応・出たり消えたり? 金属塩の反応・炎色反応</p> <p>特別展示「元素の世界」は地元テレビ局でも報道された。</p> <p>開催日時 平成25年7月20日(土)~8月25日(日) [内覧会含む・休館日除く]</p> <p>会場 981-0903 仙台市科学館 宮城県仙台市青葉区台原森林公園 4-1 Tel 022-276-2201 Fax 022-276-2204</p> <p>科学館担当者: 菅野宏一 sugano@kagakukan.sendai-c.ed.jp</p> <p>来場者数 26,531人/33日 (内覧会来場者 72名含む)</p> <p>費用 学生アルバイト代 1,736,640円 (33日) 実験用試薬代一式 200,000円</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	1,936,640円
総括	平成25年11月10日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号: 1 2 ③ 4 5 6 7



No 4-1

公開講演会・パネルディスカッション「放射性物質汚染からの
環境再生に向けた化学の貢献」を終えて

日本化学会主催の公開講演会・パネルディスカッション「放射性物質汚染からの環境再生に向けた化学の貢献」が8月26日、東京・千代田区神田駿河台の化学会館7階ホールで開催され、産・学・官、放射性物質汚染が深刻な福島から福島高校生など190名が参加した。経済産業省、文部科学省、内閣府など所管官庁、日本化学会、化学工学会、土木学会、日本原子力学会など関係学会が結集し、福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質汚染及び除染の現状と対応策について意見交換が行われた。

日本化学会は今年3月11日に発生した東日本大震災後、被災地の避難所や図書館に図書を寄贈するなど支援活動に着手、さらに東日本大震災被災者支援委員会（委員長・赤阪健筑波大学教授、各支部委員で構成）を設置し、中長期にわたる本格的な支援策を検討・実行していくことにしている。また福島第一原子力発電所事故に伴いセシウムなどの放射性物質汚染が社会問題となり、その対策が喫緊の課題となっている。この課題についても化学会として何ができるかを検討し、今回、放射性物質汚染土壌・汚泥の除染に関する最新の情報と対応策について意見交換をする緊急公開講演会・パネルディスカッションを開催した。

講演会では西本淳哉経済産業省技術総括審議官が「放射性物質除染の現状と課題」のテーマで汚染と除染の現状を明らかにするとともに、アカデミアに「学問

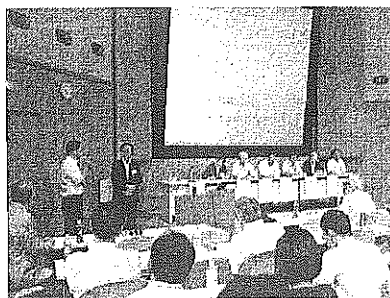


写真1 パネルディスカッション

分野の垣根を超えた連携、総合力の発揮、情報発信、政策への積極的貢献」を求めた。渡辺格文部科学省科学技術・学術政策局次長・原子力安全監は「環境モニタリングについて」で放射性物質のモニタリング、原子力災害対策支援本部の取り組みを明らかにした。これに対し日本化学会から葉袋佳孝武蔵大学教授が「環境と放射性物質」でセシウム、ストロンチウムなどの環境、生体への影響、日本化学会コロイドおよび界面化学部会長でもある尾関寿美男信州大学教授が「吸着と汚染除去」のテーマでセシウムがゼオライト、層状粘土化合物の中でどのように存在しているかなど化学の視点から現状を紹介した。

これを受けてパネルディスカッションでは橋本和仁東京大学教授を座長に、茶山秀一内閣府原子力災害対策本部原子力被災者生活支援チーム放射線班長、小川徹原子力研究開発機構原子力基礎工学研究部門長、米田稔京都大学教授（土木学会推薦）、井上正電力中央研究所研究顧問（日本原子力学会推薦）、竹下健二東



写真2 壇上にて報告する尾関

京工業大学教授（化学工学会推薦）、尾関寿美男教授をパネラーにディスカッションが行われ、「当面は土本的に放射性物質を除染することが急務で、中長期的視点で除染処理、二次廃棄物問題、吸着分離処理剤の開発など経済性をもったトータルシステムの確立が必要である」ことが示された。フロアからも「除染は社会の大きな問題、政府、学会、産業界の総合的連携が必要で、この講演会をきっかけに拡大してほしい」という意見が出された。また、福島高校のスーパーサイエンス部の生徒、教諭が東日本大震災被災者支援委員会の招きで参加した。パネルディスカッションでも積極的に発言し、効果的除染対策を訴えた。

最後に橋本和仁教授が座長コメントとして「エレガントな化学だけでなく、まさに泥にまみれた化学も必要だ。今後、政府の除染対策について科学、化学の立場からアドバイスできる情報ネットワーク、学協会連携の体制を作ることが求められる」と締め括った。

〔瀬田 博（日本化学会参与）〕

©2011 The Chemical Society of Japan

(2011. 8. 12 更新)



公開講演会・パネルディスカッション「放射性物質汚染からの環境再生に向けた化学の貢献」

東日本大震災、福島第一原子力発電所事故後の復興・再生において、放射性物質汚染による影響が社会的にも大きな問題となり、その対策が喫緊の課題となっております。そこで、経済産業省、文部科学省、内閣府と連携し、セシウムなど放射性物質に汚染された土壌・汚泥の除染に関する公開講演会「放射性物質汚染からの環境再生に向けた化学の貢献」を開催することに致しました。経済産業省、文部科学省、内閣府など所管官庁から放射性物質汚染の現状と取り組まなければならない課題と対策、学会からは科学・技術の立場から化学の貢献についてご講演を頂きます。本公開講演会・パネルディスカッションでは、行政からの問題分析とともに、化学、化学工学、土木、原子力などの各学会から専門家にお集まり頂き、検討課題や対策などについて意見交換を致します。多くの皆様のご参加をお願いいたします

主催：公益社団法人日本化学会

日時：平成23年8月26日(金)13時00分-17時00分

場所：日本化学会館7階ホール(東京都千代田区神田駿河台1-5)

ご講演予定者

「放射性物質汚染の状況総括と問題点」(仮題)	西本淳哉 経済産業省技術総括審議官
「放射性物質汚染のモニタリングと問題点」(仮題)	文部科学省(文部科学省で人選中)
「環境と放射性物質」	薬袋佳孝 武蔵大学教授
「吸着と汚染除去」	尾関寿美男 信州大学教授・日本化学会コロイドおよび界面化学部会長
	座長 橋本和仁 東京大学教授(日本化学会)
	パネリスト 茶山秀一 内閣府原子力災害対策本部原子力被災者生活支援チーム放射線班長
	米田 稔 京都大学教授(土木学会)、井上 正 電力中央研究所研究顧問(日本原子力学会)、竹下健二 東京工業大学教授(化学工学会)、尾関寿美男 信州大学教授(日本化学会)

パネルディスカッション

参加費：無料

お申し込み：申し込みフォームよりお申込みください。

締切：120名をもって締切

お問い合わせ：〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5 社団法人日本化学会 公開講演会・パネルディスカッション「放射性物質汚染からの環境再生に向けた化学の貢献」
Tel 03-3292-6163 Fax 03-3292-6318

[「日本化学会」に戻る](#)

公益社団法人 日本化学会
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
Tel: 03-3292-6161
Fax: 03-3292-6318

Copyright(C); 2011, The Chemical Society of Japan

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成 年 月 日

事業名		シンポジウム：3.11被災地の復興への歩み -安全な教育・研究環境を求めて	支援項目番号：1 2 3 4 5 6 7
組織(委員会等)名		東日本大震災被災者支援委員会	
責任者	フリガナ氏名	アカサカ タケシ [組織での役割：委員長] 赤阪 健 (会員番号：.....)	印
	連絡先	〒 305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学 生命領域学際研究センター	
協力者	フリガナ氏名	コウノ ヒロヒコ 河野 裕彦 (会員番号：.....)	
	連絡先	〒 980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学大学院 理学研究科 化学専攻	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>日本化学会東北支部大会で「東北地方の化学教育・研究の被災状況に関する情報交換と今後の対策」を目的として開催されたシンポジウム(2011年9月16日)の内容を基に、年会の場を借り東北支部の共催を得て、同様の趣旨のシンポジウムを全国の会員向けに行った(3月26日(月) 9:00-12:00、慶応大学日吉キャンパス)。その主なプログラムを次に掲げる。</p> <p>①震災への備えとその後の対応：東北大学・大学院理学研究科の場合(東北大院理) 寺田眞浩 ②東日本大震災での石巻専修大学の状況(石巻専修大理工) 指方研二 ③東日本大震災で威力を発揮した免震機構-東北薬科大学の事例(東北薬大) 吉村祐一 ④東日本大震災からの復興を目指して-福島県立高等学校の被災の状況とその後の対応(福島県教育センター) 猪股一教 ⑤被災学校の現状と日本化学会の化学教育復興への取り組み(筑波大数理) 赤阪健 ⑥総合討論会</p> <p>会場には80名近い来場者があり、各講演が真摯に聴講されていたのみならず、総合討論会では活発な意見交換が行われていた。この様子は、近々、DVD化される予定である。</p>	
		支出金合計額 (要添付：請求書等)	86,790円
総括	平成24年4月10日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号：1 2 3 4 5 6 7 常務理事印 川 24.4.20 印

№ 5 - 1

東日本大震災被災者支援事業報告書


公益社団法人日本化学会殿

事業名		公開講演会「放射性物質汚染からの環境再生に向けた化学の貢献」への、福島高校生の招待	支援項目番号： 1 2 3 4 <u>5</u> 6 7
責任者	フリガナ氏名	イソベ ヒロユキ 磯部 寛之 (会員番号：1)	印
	連絡先	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学 大学院理学研究科 化学専攻有機化学第二研究室	
協力者	フリガナ氏名	ハシヅメ キヨナリ 橋爪 清成 (会員番号：2)	
	連絡先	〒960-8002 福島県福島市森合町5-72 福島県立福島高等学校	
実施内容の概要		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>公益社団法人日本化学会主催で、平成23年8月26日(金)13時00分-17時00分に化学会館7階ホールにて開催された公開講演会・パネルディスカッション「放射性物質汚染からの環境再生に向けた化学の貢献」へ、SS部の活動として日々自校校庭の土壌汚染の状況把握活動に励んでいる県立福島高校の生徒6名及び引率の先生1名を招待した。</p> <p>今回の公開講演会への高校生の参加については、科学に興味を持つ高校生に、官学の錚々たるメンバーの除染をメインテーマとした講演や討論を直接視聴してもらおうとともに質問の機会を設け、化学(科学)に夢や希望を持ってもらえる契機となるように心がけた。</p> <p>参加者の感想によれば、彼・彼女らが行っている「放射性物質の除去に関する研究にとってヒントとなることをたくさん学ぶことができた。」とのことで、また、最大関心事である土壌からの放射性物質の除去に関しては、「粘土を中心に据えてみる必要がありそうだが、同時に、除去は難しいらしいことも分った。」とも述べている。さらに、「今後の福島状況が改善するのではないかという希望をもつことができた。」との感想もあった。また感想から、化学会が福島の問題について考えようとしていることが伝わっていることが感じ取れ、化学に対する興味・理解のある次世代育成の一助となったことを期待している。</p>	
		支出金額 (要添付：請求書等)	¥102,560.-
総括	平成23年9月26日 委員会・持ち回り委員会	承認	支援項目番号： 1 2 3 4 <u>5</u> 6 7
			常務理事印 川 24.3.06 島

東日本大震災被災者支援事業報告書

公益社団法人日本化学会殿

平成 年 月 日

事業名		被災学生への年会参加登録費の補助事業	支援項目番号: 1 2 3 4 5 <u>6</u> 7
組織(委員会等)名		東日本大震災被災者支援委員会	
責任者	フリガナ氏名	アカサカ タケン [組織での役割: 委員長] 赤阪 健 (会員番号:)	印
	連絡先	〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学 生命領域学際研究センター	
協力者	フリガナ氏名	(会員番号:)	
	連絡先	〒	
		Tel	Fax
実施内容の概要		E-mail	
		<p>(開催日時・送付日・締切日、会場、人数・冊数・箇所、等)</p> <p>東日本大震災で被災して経済的に困難な学生会員に対し、「日本化学会第92春季年会(2012)」への参加登録費の補助をすることを目的とした。</p> <p>補助対象者は申請者に限ると断って募集したところ、2件(いずれも東北大学の大学院生より)の申請申込があった。</p> <p>年会担当者に確認したところ、両名とも事前予約の学生として参加登録(登録費@4,000円)を行っていることがわかり、参加登録の裏付けが得られた。</p> <p>申請件数2件、いずれも登録費4,000円ということで、委員長判断で登録費全額を返金することとし、都合8,000円の返金処理を行った。</p> <p>この返金処理をもって、本事業は終結させる。</p>	
		支出金合計額 (要添付: 請求書等)	8,000円
総括	平成 24 年 6 月 22 日 委員会 <u>持ち回り委員会</u>		支援項目番号: 1 2 3 4 5 <u>6</u> 7 常務理事印 